

- 問1 東南アジアの農業と食文化の関係について述べた次の文のうち、ベトナムの状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- 大規模な河川のデルタ地帯で生産される米を、粉状の麺にするなど加工して食べる文化が根付いている。
  - 乾燥した気候に適した小麦を主原料とし、パンやパスタを中心とした食文化が発達している。
  - 冷涼な高原地帯でトウモロコシを大規模に栽培し、これを主食の粉として利用する文化が中心である。
  - 熱帯の痩せた土地でも育つキャッサバを、輸出用としてではなく主に国内の主食として消費している。
- 問2 東南アジアのタイにおける自動車工業の特色について、工場の進出状況と主な輸出先を組み合わせたと説明として正しいものはどれですか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
- 日系企業を中心とした工場が集中しており、ASEAN諸国など近隣のアジア市場を中心に輸出している
  - アメリカ系企業が主に進出しており、北米自由貿易協定を利用してアメリカやカナダへ輸出している
  - ヨーロッパ系企業が内陸部に工場を建設しており、陸路を利用して中国やインドへ輸出している
  - タイの地元資本による企業を中心にあり、政府の保護政策のもとで国内市場向けに生産している
- 問3 1980年代後半、欧州や北米で経済のブロック化が進む動きが見られるなか、アジア・太平洋地域において1989年に新たな協力の枠組みが設立された。その設立の背景や目的を説明した文として適切なものはどれか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 地域内の多様性を尊重しながら、貿易や投資の自由化を促進して経済的な結びつきを強めるため
  - 加盟国間での共通通貨を導入し、ヨーロッパのような政治的・経済的な統合を果たすため
  - 石油などのエネルギー資源を安定的に供給するため、資源産出国の利害を調整することを目的とするため
  - アジア・太平洋地域における軍事的な協力を強化し、集団安全保障体制を確立するため
- 問4 ベトナムに進出する日本企業の数は、2010年の約500社から2020年には約2100社へと10年間で4倍以上に急増しています。日本企業が生産拠点としてベトナムを選ぶ主な理由について、現地の社会経済状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
- 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。
  - 近隣諸国に比べて月額賃金が非常に高く設定されており、現地の人々の購買力が向上して製品の販売市場として魅力があるという点。
  - 急速な少子高齢化の影響で若者の労働力は不足しているが、代わりにAIやロボット技術を活用した高度な工場進出が進んでいるという点。
  - 15歳未満の年少人口の割合が周辺国の中で最も低く、将来的な労働力不足を見越して自動化を推進する企業が集まっているという点
- 問5 アジア大陸の南東部に位置し、ベトナムやタイなどが位置するインドシナ半島と、インドネシアやフィリピンなどの多くの島々からなるマレー諸島を合わせた地域区分として正しい名称を、次のうちから選びなさい。 (2017年 愛媛県公立入試 類似)
- 東南アジア
  - 東アジア
  - 南アジア
  - 中央アジア
- 問6 タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピンなどの東南アジアの国々が加盟し、地域の経済成長や社会・文化的発展、および地域の平和と安定を目的として結成された地域協力組織の名称として、正しいものを選びなさい。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- 東南アジア諸国連合
  - アジア太平洋経済協力会議
  - ヨーロッパ連合
  - 石油輸出国機構
- 問7 世界有数の原油産出量を誇るある国において、年間の産出量が約3億2000万トンであるのに対し、国内での消費量が約7億4000万トンに達している事例があります。このような国が、産出量が多いにもかかわらず大量の原油を輸入しなければならない理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
- 産業の発達や人口の多さにより、国内での消費量が産出量を大幅に上回っているため。
  - 産出した原油をすべて他国へ輸出することで、外貨を獲得することを優先しているため。
  - 国内に原油を精製してエネルギー資源に変える工業技術が十分に備わっていないため。
  - 将来の資源枯渇に備えるため、自国で産出した原油は使用せず、すべて地下に貯蔵しているため。
- 問8 インドにおいて、情報通信技術 (ICT) 産業が急速に発展した背景として、教育や社会的な特徴について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 英語や数学の高度な教育を受けた人材が豊富であったため
  - 豊富な石油資源を背景にした重化学工業化が優先されたため
  - 広大な農地を活かした大規模な小麦の生産に特化したため
  - 労働力が安価なため衣類などの軽工業を国の中心産業に据えたため
- 問9 トルコの宗教や国際組織への加盟状況について述べた説明として、正しいものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
- 国民の多くはイスラム教を信仰しており、ヨーロッパ連合 (EU) には加盟していない。
  - 国民の多くはキリスト教を信仰しており、ヨーロッパ連合 (EU) に加盟している。
  - 国民の多くはイスラム教を信仰しており、ヨーロッパ連合 (EU) に加盟している。
  - 国民の多くはキリスト教を信仰しており、ヨーロッパ連合 (EU) には加盟していない。
- 問10 インドの産業について述べた資料において、デカン高原南部に位置し、世界的なIT企業が数多く進出していることから「インドのシリコンバレー」とも呼ばれる都市として正しいものはどれですか。 (2021年 兵庫公立入試 類似)
- ムンバイ
  - バンガロール
  - コルカタ
  - チェンナイ
- 問11 1980年代以降の中国において、都市居住者の割合を示す統計が右肩上がりて推移し、現在は60%を超えています。このような人口動態の変化をもたらした背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 佐賀公立入試 類似)
- 経済発展に伴い、より良い所得や生活環境を求めて農村から都市への人口移動が進んだため。
  - 都市部における出生率が農村部を大きく上回り、自然増による人口増加が続いたため。
  - 一人っ子政策の緩和によって、都市部での幼児の死亡率が急激に低下したため。
  - 政府が農村部での農業生産を禁止し、すべての国民に都市への移住を強制したため。
- 問12 アラビア半島を中心とする西アジアの国々では、広大な砂漠が広がる一方で、近年では高層ビルが立ち並び近代的な都市が建設されています。このような変化の背景と、現在の産業の動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
- 石油の輸出で得た豊富な資金を背景に、都市の基盤整備を進めるとともに、将来の資源枯渇を見据えて観光開発などにも力を入れている。
  - 雨季と乾季の交代に合わせた大規模な治水工事を行い、砂漠を広い水田地帯に変えることで、農産物の輸出を主産業としている。
  - 沿岸部に多くの水上集落を建設することで、厳しい砂漠の気候を避けた生活を送り、伝統的な漁業を国の経済の中心に据えている。
  - 海外からの多額の経済援助のもとに、砂漠全域を森林化するプロジェクトを完了させ、現在は木材の輸出を最大の収益源としている。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 大規模な河川のデルタ地帯で生産される米を、粉状の麺にするなど加工して食べる文化が根付いている。	ベトナムでは、メコン川などの大河が形成した広大なデルタ（三角州）で稲作が行われてきました。豊富に収穫される米を麺（フォー）や生春巻きの皮（ライスペーパー）に加工して利用するのは、米を基盤としたこの地域特有の食文化です。他の選択肢にある小麦は温帯の乾燥地、トウモロコシやキャッサバは東南アジアにおいても栽培されますが、ベトナムを代表する伝統的な主食の形態とは異なります。
問2	答え 1 日系企業を中心とした工場が集中しており、ASEAN諸国など近隣のアジア市場を中心に輸出している	タイの自動車工業は、1960年代以降の日系企業の進出によって大きく発展しました。タイは「アジアのデトロイト」とも呼ばれるほどの生産能力を持ち、生産された車両はASEAN域内の関税撤廃を背景に、アジア諸国へ効率的に輸出されています。欧米系企業や地元資本ではなく、日本の自動車メーカーが生産の中心的役割を担っている点が大きな特徴です。
問3	答え 1 地域内の多様性を尊重しながら、貿易や投資の自由化を促進して経済的な結びつきを強めるため	APECは、経済発展の段階が異なる多様な国や地域が参加しているため、強制的ではない「対話と協力」を基本としています。世界の経済が特定の地域ごとにまとまっていく動き（ブロック経済化）に対抗し、開かれた経済協力を進めることで、地域全体の繁栄を図ることを目的としています。
問4	答え 1 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。	ベトナムは近隣の韓国などと比較して、労働者の月額賃金が低く抑えられているというコスト面での優位性があります。さらに、人口構成において生産年齢の中核を担う15歳から49歳の人口割合が高い、いわゆる「人口ボーナス」の恩恵を受けている時期にあたります。このように、安価で豊富な労働力を安定して活用できることが、日本企業の進出が急増した背景にあります。
問5	答え 1 東南アジア	アジアは、地理的な位置や文化的なまとまりによっていくつかの地域に区分されます。そのうち、インドシナ半島と、世界最大の島嶼部（とうしょぶ）であるマレー諸島（インドネシア、フィリピンなど）を合わせた範囲を東南アジアと呼びます。日本や中国が含まれるのは東アジア、インドが含まれるのは南アジアです。
問6	答え 1 東南アジア諸国連合	1967年に結成されたこの組織は、略称をASEAN（アセアン）といいます。当初は5カ国で発足しましたが、現在はミャンマーやカンボジアなども加わり、東南アジアの10カ国が加盟しています。域内の経済的な協力だけでなく、政治的な対立を避けて安定を維持することが、この地域の発展に大きく貢献しています。
問7	答え 1 産業の発達や人口の多さにより、国内での消費量が産出量を大幅に上回っているため。	国の経済規模が大きく、産業の発達や膨大な人口を抱える国では、エネルギー資源の需要が極めて高くなります。たとえ自国での原油産出量が世界トップクラスであっても、国内の消費量がそれを上回る場合には、不足分を補うために他国から輸入する必要があります。これは、資源の豊かさだけでなく、国内の需要（消費量）とのバランスが貿易の形態を決定することを示しています。
問8	答え 1 英語や数学の高度な教育を受けた人材が豊富であったため	インドではかつてイギリスの植民地であった歴史から英語が公用語の一つとなっており、欧米企業との取引がスムーズに行える強みがあります。また、伝統的に数学教育の水準が高く、これらが現代のICT産業におけるソフトウェア開発やサービス業の発展を支える大きな要因となりました。
問9	答え 1 国民の多くはイスラム教を信仰しており、ヨーロッパ連合（EU）には加盟していない。	トルコは歴史的にイスラム教勢力の中心であったオスマン帝国の領土を継承しているため、現在も国民の大多数がイスラム教を信仰しています。また、地理的にヨーロッパとアジアにまたがっており、長年ヨーロッパ連合（EU）への加盟を希望して交渉を続けていますが、現時点では加盟が認められていない「非加盟国」です。地理の学習において、ヨーロッパ諸国との共通点と相違点を整理しておくことが重要です。
問10	答え 2 バンガロール	インドでは1990年代以降、ソフトウェア開発などのIT産業（情報技術産業）が急速に発展しました。特にデカン高原の南部に位置するバンガロールは、高度な技術を持つ人材が集まり、科学技術の拠点となったことで、世界各地からIT関連企業が集まる大都市へと成長しました。
問1	答え 1 1 経済発展に伴い、より良い所得や生活環境を求めて農村から都市への人口移動が進んだため。	中国の都市人口率の上昇は、経済のグローバル化や工業化に伴う「社会増（人口移動）」が主な要因です。都市部の賃金水準が農村部よりも高いことから、多くの労働力が都市部へ流入しました。これは出生率や死亡率の変化による「自然増」とは異なる、社会構造の変化による現象です。
問1	答え 1 2 石油の輸出で得た豊富な資金を背景に、都市の基盤整備を進めるとともに、将来の資源枯渇を見据えて観光開発などにも力を入れている。	西アジアのアラビア半島周辺の国々では、埋蔵されている豊富な石油（原油）の輸出によって莫大な資金を獲得してきました。この資金を投入して、かつては砂漠だった場所に冷暖房の完備された高層ビルや道路などのインフラを整備し、急速な近代化を成し遂げました。近年では、石油資源が将来的に枯渇することや、世界的な脱炭素の動きを考慮し、石油依存からの脱却を目指してドバイなどの都市を中心に観光開発や金融ビジネスにも注力しています。